

教職大学院学生の能力獲得に対する期待 と能力獲得の関係

～全国教職大学院意識調査の分析～

河野 志穂

キーワード：教職大学院、能力獲得、学部新卒学生と現職教員学生の相違

【要 旨】 本論文の目的は、教職大学院における学生の能力獲得に関し、学部新卒学生と現職教員学生の間で、入学前に抱く能力獲得に対する期待や大学院での能力獲得の状況に違いがあるのかを考察することである。教職大学院には、新人教員養成とスクールリーダー養成という2つの目的がある。このように教職大学院は、実務経験の有無の点で異なる履歴を持った学生が共に学ぶ場であり、入学前に獲得を期待する能力や実際の能力獲得にも両者で違いがあることが想定される。全国の教職大学院学生に行った調査に基づく知見は4点あり、第一は入学前に獲得を期待した能力に関して、学部新卒学生は【授業力】【児童生徒理解】の獲得を期待する者が多く、現職教員学生は【学校運営力】の獲得を期待する者が多いことである。第二は、大学院で身につけた能力に関しては、圧倒的に現職教員学生の獲得した割合が高いことである。特に【学校運営力】【学校外連携】【児童生徒理解】では、現職教員学生の方がより能力を獲得している。第三は、入学前の能力獲得に対する期待と実際の能力獲得を掛け合わせると、期待通りに能力を獲得しているのは学部新卒学生の約6割、現職教員学生の約7割であり、他方、期待したように能力を身につけられていないのは学部新卒学生の約3割、現職教員学生の2割弱であった。このように期待が叶えられていない状況は、学生の学びのモチベーションの維持や大学院教育の教育効果を考える上で課題を提示している。第四は、学部新卒学生と現職教員学生によって、獲得を目指す能力や大学院教育に求めるものに違いがあり、これは実務経験の有無によって規定される可能性があることである。とりわけ【学校運営力】や【学校外連携】といった能力に関して、学部新卒学生がその獲得の必要性を認識したり獲得を期待したりすることには難しさがあり、こうした能力の獲得に関して、学部新卒学生の期待や獲得が低いことには妥当性がある。

1. はじめに

本論文の目的は、教職大学院における学生の能力獲得に関し、学部新卒学生と現職教員学生の間で、入学前に抱く能力獲得に対する期待や大学院での能力獲得の状況に違いがあるのかを考察することである。

教職大学院は、専門職大学院の一形態として平成20年度に創設された。専門職大学院の目的は、高度で専門的な知識・能力を備えた高度専門職業人の養成であり、教職大学院には、新人教員養成とスクールリーダー（中核の中堅教員）養成という2つの目的・機能がある¹。このように、教職大学院には、学部を卒業したばかりの実務経験のない（あるいはあっても乏しい）学生と、教師としての実務経験を持つ現職教員の学生という異なる履歴を持つ学生が在籍している。

2000年代に入り政府機関が、若者が身につけることが望ましい能力に関して様々な提言を行っ

て以来²、教育機関においてもその教育成果としてどのような能力を身につけたのか、学生の自己評価を聞く様々な調査が行われている³。専門職大学院における能力獲得に関しては、吉田(2008)が調査を実施しているが、これは教職大学院だけでなくすべての専門職大学院の学生を対象としている。これらの調査では、能力に関する設問として、幅広い知識・教養、論理的に考える能力、対人関係能力など、特定の職業に特化しない能力一般について聞いている。教職大学院を対象に実施した調査としては、群馬大学教職大学院の修了生を対象とした新藤・山口(2013)がある。この研究では、能力として、児童生徒支援力と学校運営能力に焦点を絞り、それらを構成する要素を丁寧⁴に分析し、回答者に能力の獲得状況を聞いている。しかしながら、文部科学省が、教職大学院に共通するカリキュラムの枠組みとして5領域⁴を示したように、教職大学院で養成が目指される専門職としての能力はもっと幅広いものと言える。例えば、文部科学省が示した5領域とは「1. 教育課程の編成・実施に関する領域」「2. 教科等の実践的な指導方法に関する領域」「3. 生徒指導、教育相談に関する領域」「4. 学級経営、学校経営に関する領域」「5. 学校教育と教員の在り方に関する領域」であるが、これらをまとめると、教職大学院では、教師として授業をする上で必要な能力、児童生徒に適切な対応をする能力、管理職として学校を運営する能力の育成を目指していると言える。また、教職大学院においては、教職に必要な能力に限定されない、幅広い知識・技能についても育成されるはずであり、こうしたいわば一般的能力についても把握する必要がある。

学部生を対象とした先行研究である両角(2009)は、学生の能力向上には、大学での授業が自身のやりたいことと関係していることが影響を及ぼしている⁵と解明している。これは、言い換えれば、学生の持つ学びのモチベーションが能力獲得に影響を及ぼしているということである。このような学びのモチベーションと能力獲得の関係が、教職大学院においても成り立つのであろうか。

本研究では、図1に示すように、入学前に大学院でどのような能力を身につけたいと考えて進学してきたか(入学前の能力獲得の期待)、そして在学中の現在、そうした能力を身につけることができているか(在学中の能力獲得の自己評価)について、考察する。そして、学びのモチベーションと能力獲得の関係性を考えるために、両者の差を検討する。能力に関しては、多様な能力を設定することが可能であるが、ここでは、5つの能力を設定した。まず、学部生を対象とした先行研究で聞かれている【一般的能力】を設定し、次に、教員という職業に必要とされる能力(職業的能力)に関して、4領域を設定した。4領域とは、第一は教員として授業を実施していく上で必要となる知識・技術や方法(以下【授業力】と略記)、第二は教員として児童生徒と向き合う上で必要となる知識や方法(以下【児童生徒理解】と略記)、第三は学校経営に関わる知識や方法(以下【学校運営力】と略記)、第四は保護者や教育委員会など学校外との連携の方法(以下【学校外連携】と略記)である。前者2領域は管理職であるか否かを問わず広く教員全般にとって必要な能力であり、後者2領域は主に管理職にとって必要な能力と言える。なお、本研究においては、教職大学院入学前までに異なる履歴を持つ、学部新卒学生と現職教員学生を比較軸として分析を行う。学部新卒学生と現職教員学生では、身につけることを期待する能力に違いはあるのだろうか、また実際に身につけた能力に違いがあるのだろうか。また、能力獲得の期待と実際の獲得能力の関係には、学部新卒学生と現職教員学生で違いはあるのだろうか。

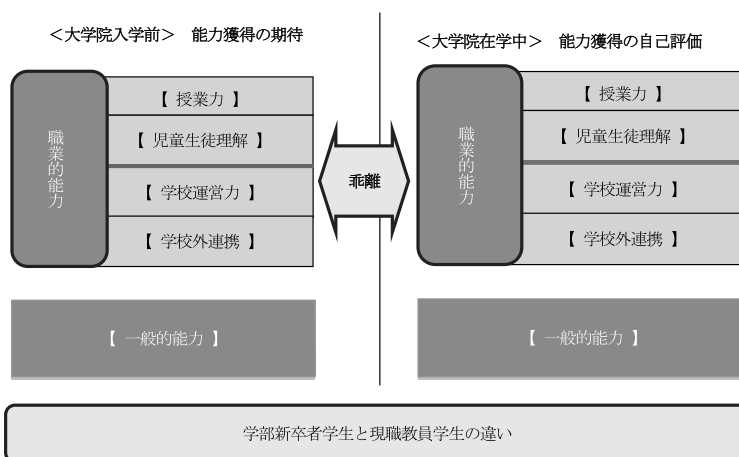


図1 本研究の分析枠組み

2. 調査概要等

2-1. 調査概要

本調査は、教職大学院の在学学生を対象としたものであり、全国にある教職大学院25校中19校で実施した。調査の実施時期は2012年11月下旬から12月下旬にかけてである。調査票の配布は各大学院を通じて行い1,397通配布した。回収は郵送で行い535通返送された。回収率は38.3%である。

2-2. 回答者の基本属性

教職大学院に入学する前の経歴として、学部新卒者・社会人である場合（以下、学部新卒者等と略記）と、現職教員である場合がある。本調査では、学部新卒者等は311人（58.1%）、現職教員は221人（41.3%）、不明は3人（0.6%）であった。

以下、学部新卒者等と現職教員にわけて、調査対象者の属性をまとめる。

まず、性別に関しては、学部新卒者等も現職教員も男性が6割を超えていた（表1）。

表1 学部新卒者等／現職教員別の性別の内訳（%）

| | 男性 | 女性 | 合計 | <i>p</i> |
|-----------------|------|------|-------|----------|
| 学部新卒者等（n = 309） | 61.8 | 38.2 | 100.0 | n.s. |
| 現職教員（n = 220） | 64.1 | 35.9 | 100.0 | |

年齢構成に関しては、学部新卒者等の年齢の8割が24歳以下であるのに対して、現職教員では9割弱が35歳以上である（表2）。

表2 学部新卒者等／現職教員別の年齢の内訳（%）

| | 24歳以下 | 25～34歳 | 35～44歳 | 45～59歳 | 合計 | <i>p</i> |
|-----------------|-------|--------|--------|--------|-------|----------|
| 学部新卒者等（n = 310） | 81.3 | 16.8 | 0.6 | 1.3 | 100.0 | *** |
| 現職教員（n = 221） | 0.5 | 11.3 | 66.5 | 21.7 | 100.0 | |

****p* < .001

また、現職教員の現在の役職をみると、管理職や主幹教諭は6%とごく少数であり、大多数が教諭・指導教諭といった管理職以外である(表3)。なお、現職教員のうち85.5%が教育委員会からの派遣制度を使って大学院に入学している。

表3 現職教員の現在の役職

| 現在の役職 | 構成比 (%) |
|--------------------|---------|
| 校長・園長、副校長・副園長、主幹教諭 | 6.4 |
| 教諭・指導教諭 | 91.8 |
| その他 | 1.8 |
| 合計 (n = 221) | 100.0 |

2-3. 能力項目の設定について

図1の分析枠組みに示したように、能力項目の設定にあたっては、学部生を対象とした先行研究で聞かれている【一般的能力】に加え、教員という職業に必要とされる能力4領域(具体的には、【授業力】【授業生徒理解】【学校運営力】【学校外連携】)に関して、26項目の質問項目を設定した(表4)。

表4 本調査で聞いた能力に関する26項目の質問項目

【授業力】

- A. 教科の専門知識
- B. 授業を展開していく技術(発問、机間指導など)
- C. 生徒を楽しませ、笑顔にさせる方法
- D. 授業日時数・授業形態・教材を構成・作成する方法
- E. 電子黒板やコンピュータなどICT活用の方法
- F. 児童・生徒を評価する方法

【授業生徒理解】

- G. 児童・生徒の個性を理解する方法
- H. 学級を統率する方法
- I. 生徒指導に関する知識
- J. 学校カウンセリングに関しての方法
- K. 特別に支援の必要な児童・生徒に関する知識
- L. 進路指導に関する方法

【学校運営力】

- M. 同僚との関係づくりに関する知識
- N. 教員のメンタルヘルスに関する知識
- O. 教員組織を統率する方法

P. 若手教員の育成に関する知識

Q. 教育法規に関する知識

R. 教員研修に関する知識

【学校外連携】

S. 保護者・地域との関係づくりの方法

T. 教育委員会などの行政との関係づくりの方法

U. 社会教育関係機関、企業、他校など学校外の機関との関係づくりの方法

【一般的能力】

V. 教職に限らない幅広い教養

W. 論理的に考える能力

X. 時間管理能力

Y. 文章表現の能力

Z. 社会が直面する様々な問題の理解

なお、以下では、上記の能力項目を記載する際、紙幅の関係から適宜、省略しているものもある。

3. 調査結果

3-1. 入学前に身につけることを期待していた能力

本調査では、26の能力項目について、入学前に身につけたいと思っていたか、能力獲得に対する期待を回顧的に問うている。選択肢は「期待していなかった」と「期待していた」の2件法である。

学部新卒者等と現職教員に分けて、「期待していた」と回答した者の割合を示したのが表5である。

期待の有無と学生の属性を掛け合わせ10%水準以上の有意差があった項目、かつ「身につけることを期待していた」者の割合が学部新卒者等と現職教員で10ポイント以上差があった項目に対して、表では網掛けを施した。

こうした条件にあてはまる項目のうち、学部新卒者等がより「身につけることを期待していた」項目は8項目あった。具体的には「C. 生徒を楽しませ、笑顔にさせる方法（学部新卒者等の方が24.4ポイント高い）」「B. 授業を展開していく技術（同17.9ポイント高）」「L. 進路指導に関する方法（同16.3ポイント高）」「D. 授業時数・授業形態等を構成する方法（同14.9ポイント高）」「A. 教科の専門知識（同14.0ポイント高）」「S. 保護者・地域との関係づくり（同13.8ポイント高）」「H. 学級を統率する方法（同13.5ポイント高）」「E. ICT活用の方法（同10.2ポイント高）」である。他方、現職教員がより「身につけることを期待していた」項目は4項目あり、具体的には「P. 若手教員の育成に関する知識（現職教員の方が30.3ポイント高い）」「R. 教員研修に関する知識（同27.2ポイント高）」「O. 教員組織を統率する方法（同24.2ポイント高）」「W. 論理

表5 学部新卒者等／現職教員別、入学前に身につけることを期待していた割合(%)

| | 身につけることを期待していた | | (い-ろ) | <i>p</i> (注1) | |
|------------------------------|-------------------------|---------|-------|------------------|------|
| | 学部新卒者等(い) | 現職教員(ろ) | | | |
| 【授 業 力】 | A. 教科の専門知識 | 90.2 | 76.2 | 14.0 | *** |
| | B. 授業を展開していく技術 | 98.7 | 80.8 | 17.9 | *** |
| | C. 生徒を楽しませ、笑顔にさせる方法 | 85.0 | 60.6 | 24.4 | *** |
| | D. 授業時数・授業形態等を構成する方法 | 94.4 | 79.5 | 14.9 | *** |
| | E. ICT活用する方法 | 73.3 | 63.1 | 10.2 | * |
| | F. 児童・生徒を評価する方法 | 88.6 | 83.3 | 5.3 | † |
| 【児 童 生 徒 理 解】 | G. 児童・生徒の個性を理解する方法 | 94.1 | 86.0 | 8.1 | ** |
| | H. 学級を統率する方法 | 95.7 | 82.2 | 13.5 | *** |
| | I. 生徒指導に関する知識 | 94.1 | 89.7 | 4.4 | † |
| | J. 学校カウンセリングに関しての方法 | 83.3 | 81.9 | 1.4 | n.s. |
| | K. 特別に支援の必要な児童・生徒に関する知識 | 83.9 | 82.2 | 1.7 | n.s. |
| | L. 進路指導に関する方法 | 73.1 | 56.8 | 16.3 | *** |
| 【学 校 運 営 力】 | M. 同僚との関係づくりに関する知識 | 62.2 | 71.4 | -9.2 | * |
| | N. 教員のメンタルヘルスに関する知識 | 57.8 | 65.1 | -7.3 | n.s. |
| | O. 教員組織を統率する方法 | 52.9 | 77.1 | -24.2 | *** |
| | P. 若手教員の育成に関する知識 | 46.3 | 76.6 | -30.3 | *** |
| | Q. 教育法規に関する知識 | 65.8 | 72.4 | -6.6 | n.s. |
| | R. 教員研修に関する知識 | 53.3 | 80.5 | -27.2 | *** |
| 【学 校 外 連 携】 | S. 保護者・地域との関係づくりの方法 | 81.4 | 67.6 | 13.8 | *** |
| | T. 行政との関係づくりの方法 | 53.9 | 58.9 | -5.0 | n.s. |
| | U. 学校外の機関との関係づくりの方法 | 55.6 | 62.1 | -6.5 | n.s. |
| 【一 般 的 能 力】 | V. 教職に限らない幅広い教養 | 77.9 | 83.1 | -5.2 | n.s. |
| | W. 論理的に考える能力 | 84.0 | 94.0 | -10.0 | † |
| | X. 時間管理能力 | 63.8 | 62.1 | 1.7 | n.s. |
| | Y. 文章表現の能力 | 75.9 | 80.3 | -4.4 | n.s. |
| | Z. 社会が直面する問題の理解 | 73.3 | 79.0 | -5.7 | n.s. |

(注1) 身につけることを「期待していなかった」「期待した」と、学部新卒者等／現職教員を掛け合わせた場合
(クロス集計した場合)の有意確率である。 ****p*<.001 ***p*<.01 **p*<.05 †*p*<.1

的に考える能力（同10.0ポイント高）」である。

以上から読み取れることは、入学する前、学部新卒者等の場合は、【授業力】や【児童生徒理解】に関わる能力を身につけることを期待し、現職教員は【学校運営力】を身につけることを期待しているということである。また、現職教員の場合は、大学というアカデミックな場であるからこそその期待であろうか、「論理的に考える能力」を身につけることを期待する者が学部新卒者等に比べ多いことである。

教員としての勤務経験がない（あるいは仮にあったとしても乏しい）学部新卒者等にしてみれば、入学前には管理職として学校を運営するために必要な知識・方法を身につけることまで想像が及ばないのかもしれない。また、教員として勤務している現職教員にすれば、授業力や児童生徒を理解するために必要な知識・方法はすでに身につけているため、獲得を期待していない可能性が考えられる。

以上から、学部新卒者等と現職教員では、入学前に獲得を期待した能力に違いがあることがわかった。

3-2. 大学院で身につけた能力

では、大学院で身につけた能力に関しては、学部新卒者等と現職教員で違いはないのであろうか。本調査では、26の能力項目について教職大学院でどの程度身についたか、4件法（身につけていない、あまり身につけていない、ある程度身につけている、身につけている）で聞いた。表6は、学部新卒者等と現職教員に分けて、「ある程度身につけている」「身につけている」を合算した割合を示したものである。

3-1における考察と同様に、能力獲得の有無と学生の属性を掛け合わせ10%水準以上の有意差があった項目、かつ「身についた」者の割合が学部新卒者等と現職教員で10ポイント以上差があった項目に対して、表では網掛けを施している。

学部新卒者等の数値（い）から現職教員の数値（ろ）を引いた欄（いーろ）において網掛けが施された項目のほとんどがマイナスになっていることから、現職教員の獲得の割合の高さが読み取れる。特に、【児童生徒理解】の項目や【学校運営力】【学校外連携】のほぼすべての項目で、現職教員の方が多く獲得している。学部新卒者等の方が多く獲得しているのは「B. 授業を展開していく技術」のみである。

以上から、大学院に入ってから獲得した能力に関しては、現職教員の方が学部新卒者等よりも「身につけている」と考えていること、特に【学校運営力】【学校外連携】【児童生徒理解】といった領域でそれが顕著なことがわかった。

3-3. 「能力獲得に対する期待×能力獲得」の状況

3-1と3-2における考察によって、学部新卒者等と現職教員では、入学前に身につけることを期待した能力と、大学院で身につけた能力には、領域の違いがあることが明らかになった。

しかし、このように獲得の期待と実際の獲得を個別に見るだけでは、獲得を期待していたにも関わらず獲得できなかったのか、獲得を期待していなかったのに獲得しなかったのかが不明瞭で

表6 学部新卒者等／現職教員別、大学院で身につけた割合（％）

| | 大学院で身につけた | | (い-ろ) | p (注1) | |
|----------|-------------------------|---------|-------|-----------|------|
| | 学部新卒者等(い) | 現職教員(ろ) | | | |
| 【授業力】 | A. 教科の専門知識 | 62.3 | 65.0 | -2.7 | n.s. |
| | B. 授業を展開していく技術 | 79.5 | 65.9 | 13.6 | ** |
| | C. 生徒を楽しませ、笑顔にさせる方法 | 66.1 | 62.8 | 3.3 | n.s. |
| | D. 授業時数・授業形態等を構成する方法 | 74.4 | 76.1 | -1.7 | n.s. |
| | E. ICT活用の方法 | 41.7 | 48.6 | -6.9 | n.s. |
| | F. 児童・生徒を評価する方法 | 48.4 | 75.0 | -26.6 | *** |
| 【児童生徒理解】 | G. 児童・生徒の個性を理解する方法 | 78.6 | 87.2 | -8.6 | * |
| | H. 学級を統率する方法 | 51.3 | 74.4 | -23.1 | *** |
| | I. 生徒指導に関する知識 | 78.9 | 83.5 | -4.6 | n.s. |
| | J. 学校カウンセリングに関しての方法 | 61.4 | 76.7 | -15.3 | *** |
| | K. 特別に支援の必要な児童・生徒に関する知識 | 64.9 | 76.7 | -11.8 | ** |
| | L. 進路指導に関する方法 | 16.9 | 32.0 | -15.1 | *** |
| 【学校運営力】 | M. 同僚との関係づくりに関する知識 | 60.7 | 80.4 | -19.7 | *** |
| | N. 教員のメンタルヘルスに関する知識 | 42.3 | 56.8 | -14.5 | ** |
| | O. 教員組織を統率する方法 | 26.3 | 74.1 | -47.8 | *** |
| | P. 若手教員の育成に関する知識 | 17.9 | 72.3 | -54.4 | *** |
| | Q. 教育法規に関する知識 | 62.0 | 62.7 | -0.7 | n.s. |
| | R. 教員研修に関する知識 | 38.6 | 74.5 | -35.9 | *** |
| 【学校外連携】 | S. 保護者・地域との関係づくりの方法 | 54.5 | 68.0 | -13.5 | ** |
| | T. 行政との関係づくりの方法 | 22.1 | 48.9 | -26.8 | *** |
| | U. 学校外の機関との関係づくりの方法 | 32.6 | 53.4 | -20.8 | *** |
| 【一般的な能力】 | V. 教職に限らない幅広い教養 | 59.9 | 72.3 | -12.4 | ** |
| | W. 論理的に考える能力 | 75.9 | 83.2 | -7.3 | † |
| | X. 時間管理能力 | 60.9 | 60.9 | 0.0 | n.s. |
| | Y. 文章表現の能力 | 69.7 | 73.2 | -3.5 | n.s. |
| | Z. 社会が直面する問題の理解 | 62.2 | 75.0 | -12.8 | ** |

(注1) 4件法(身につけていない、あまり身につけていない、ある程度身につけている、身につけている)で問うた内容を、「身につけていない」「身につけている」の2区分にした。それらと学部新卒者等／現職教員を掛け合わせた場合(クロス集計した場合)の有意確率である。

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .1$

ある。前者は、期待外れな状況であるが、後者は期待せずに獲得しないのであるから当然の結果とも言える。

ここでは26の能力項目に関して、能力獲得の期待と能力獲得を掛け合わせた分布を見る。能力獲得に対する期待と能力獲得には、以下の4つの組み合わせが考えられる（表7）。

表7 「能力獲得に対する期待×能力獲得」の4類型

| | 以下での略記法 |
|-------------------------------|---------------|
| a. 入学前に獲得を期待せず、大学院で獲得していない | a. 期待せず獲得もせず |
| b. 入学前に獲得を期待し、大学院で獲得している | b. 期待し獲得もした |
| c. 入学前に獲得を期待しなかったが、大学院で獲得している | c. 期待しないが獲得した |
| d. 入学前に獲得を期待したが、大学院で獲得しなかった | d. 期待したが獲得せず |

表中の略記法に従えば「a. 期待せず獲得もせず」および「b. 期待し獲得もした」という状況は、いわば回答者にとっては想定通りの状況である。入学前の学びのモチベーションの関係を考える上では、入学前の期待が悪い意味で裏切られる「d. 期待したが獲得せず」に焦点を当てて考える必要がある。

「d. 期待したが獲得せず」を見る前に、学部新卒者等／現職教員別に、これら4類型の分布の状況を見ておく（表8）。

表を概観すると、aからdのうち、最も回答者の割合が高いのは「b. 期待し獲得もした」で、次いで「d. 期待したが獲得せず」が多く、最も少ないのは「c. 期待しないが獲得した」である。またこの順位構成は学部新卒者等と現職教員で変わらない。

表7の結果に基づいて、各選択肢に関して領域ごとの平均値を計算したものが図2～図5である。それぞれ学部新卒者等と現職教員を分けて図示している。

各図を説明すると、まず図2の「a. 期待もせず獲得もせず」では、学部新卒者等と現職教員の差が大きいのは【学校運営力】や【授業力】である。【学校運営力】に関しては、学部新卒者等の方が入学前に期待しておらず大学院でも獲得していない者が多く、【授業力】に関しては現職教員の方が期待も獲得もしていない者が多い。

次に図3の「b. 期待し獲得もした」に関して、学部新卒者等と現職教員の差が大きいのは【学校運営力】や【学校外連携】である。どちらも現職教員の方が、入学前に獲得を期待し大学院で獲得している者が多い。

次に図4の「c. 期待しないが獲得した」に関して、学部新卒者等と現職教員の差が大きいのは【授業力】と【児童生徒理解】である。どちらも現職教員の方が、入学前に期待していなかったが大学院で獲得している者が多い。

最後に図5の「d. 期待したが獲得せず」に関しては、すべての項目で学部新卒者等の方が割合は高い。【一般的能力】を除く領域で、学部新卒者等と現職教員の差は大きい。

また、回答者の26項目の回答がaからdのどの類型に何項目該当したかを、学部新卒者等と現

表8 「能力獲得に対する期待×能力獲得」の状況(%)

| | | a. 期待せず 獲得もせず | b. 期待し 獲得もした | c. 期待しな いが獲得した | d. 期待した が獲得せず | 合計 (注1) | p | |
|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------|------------------|--------------|----------------|----------------|
| 【授業力】 | A. 教科の専門知識 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 5.9 19.2 | 58.2 59.8 | 3.9 4.7 | 31.9 16.4 | 100.0 100.0 | *** |
| | B. 授業を展開していく 技術 | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=213) | 0.7 12.7 | 78.5 59.2 | 0.7 6.6 | 20.1 21.6 | 100.0 100.0 | *** |
| | | C. 生徒を楽しませ、笑 顔にさせる方法 | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=212) | 9.6 25.0 | 60.4 48.6 | 5.6 14.2 | 24.4 12.3 | 100.0 100.0 |
| | D. 授業時数・授業形態 等を構成する方法 | 学部新卒者等(n=302) 現職教員(n=213) | 2.3 9.9 | 71.2 65.3 | 3.3 10.8 | 23.2 14.1 | 100.0 100.0 | *** |
| | | E. ICT活用する方法 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 19.5 28.5 | 34.3 39.7 | 7.3 8.4 | 38.9 23.4 | 100.0 100.0 |
| | F. 児童・生徒を評価す る方法 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=215) | 9.9 9.8 | 46.4 67.9 | 1.6 7.0 | 42.1 15.3 | 100.0 100.0 | *** |
| G. 児童・生徒の個性を 理解する方法 | | 学部新卒者等(n=302) 現職教員(n=214) | 3.3 3.7 | 76.5 77.1 | 2.6 9.8 | 17.5 9.3 | 100.0 100.0 | ** |
| | H. 学級を統率する方法 | 学部新卒者等(n=301) 現職教員(n=213) | 2.3 7.5 | 49.5 64.8 | 2.0 9.9 | 46.2 17.8 | 100.0 100.0 | *** |
| I. 生徒指導に関する知 識 | | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=212) | 2.6 1.9 | 76.2 75.5 | 3.3 8.0 | 17.8 14.6 | 100.0 100.0 | (注2) |
| | J. 学校カウンセリング に関する方法 | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=215) | 7.6 7.4 | 53.1 66.0 | 8.9 10.2 | 30.4 16.3 | 100.0 100.0 | ** |
| K. 特別に支援の必要な 児童・生徒に関する知識 | | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=213) | 7.3 7.0 | 56.6 66.2 | 8.6 10.3 | 27.5 16.4 | 100.0 100.0 | † |
| | L. 進路指導に関する方 法 | 学部新卒者等(n=302) 現職教員(n=212) | 24.8 37.7 | 14.2 25.5 | 2.3 5.7 | 58.6 31.1 | 100.0 100.0 | *** |
| M. 同僚との関係づくりに 関する知識 | | 学部新卒者等(n=301) 現職教員(n=212) | 20.3 8.0 | 42.9 59.9 | 17.6 20.8 | 19.3 11.3 | 100.0 100.0 | *** |
| | N. 教員のメンタルヘル スに関する知識 | 学部新卒者等(n=302) 現職教員(n=215) | 29.5 22.3 | 29.5 44.2 | 12.9 12.6 | 28.1 20.9 | 100.0 100.0 | ** |
| O. 教員組織を統率する 方法 | | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=214) | 38.6 10.3 | 17.2 61.7 | 8.6 12.6 | 35.6 15.4 | 100.0 100.0 | *** |
| | P. 若手教員の育成に関 する知識 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 50.3 9.3 | 14.1 58.9 | 3.6 14.0 | 31.9 17.8 | 100.0 100.0 | *** |
| Q. 教育法規に関する知 識 | | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 16.8 18.2 | 44.4 52.3 | 17.4 9.3 | 21.4 20.1 | 100.0 100.0 | † |
| | R. 教員研修に関する知 識 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=215) | 33.7 10.2 | 25.1 65.1 | 13.2 9.3 | 28.1 15.3 | 100.0 100.0 | *** |
| S. 保護者・地域との関 係づくりの方法 | | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=212) | 9.6 17.0 | 45.5 52.8 | 9.2 15.1 | 35.6 15.1 | 100.0 100.0 | *** |
| | T. 教育委員会などの行政 との関係づくりの方法 | 学部新卒者等(n=303) 現職教員(n=213) | 41.3 31.5 | 16.8 39.0 | 5.0 9.4 | 37.0 20.2 | 100.0 100.0 | *** |
| U. 学校外の機関との関 係づくりの方法 | | 学部新卒者等(n=302) 現職教員(n=213) | 33.1 28.2 | 21.2 43.2 | 11.3 9.4 | 34.4 19.2 | 100.0 100.0 | *** |
| | V. 教職に限らない幅広 い教養 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=213) | 10.9 9.9 | 48.7 64.3 | 11.2 7.0 | 29.3 18.8 | 100.0 100.0 | ** |
| W. 論理的に考える能力 | | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 4.3 3.3 | 64.5 76.2 | 11.5 6.5 | 19.7 14.0 | 100.0 100.0 | * |
| | X. 時間管理能力 | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=214) | 16.4 20.6 | 41.1 43.5 | 19.7 17.3 | 22.7 18.7 | 100.0 100.0 | n.s. |
| Y. 文章表現の能力 | | 学部新卒者等(n=304) 現職教員(n=213) | 8.9 10.3 | 54.9 62.9 | 15.1 9.4 | 21.1 17.4 | 100.0 100.0 | n.s. |
| | Z. 社会が直面する問題 の理解 | 学部新卒者等(n=301) 現職教員(n=217) | 9.3 17.1 | 59.8 48.8 | 9.0 16.6 | 21.9 17.5 | 100.0 100.0 | ** |

***p<.001 **p<.01 *p<.05 †p<.1

(注1) 合計の割合に関しては、各選択肢を四捨五入した際の桁繰りの関係から100.0にならないことがある。

(注2) 期待度数が5未満のセルがあったため有意確率は記載しない。

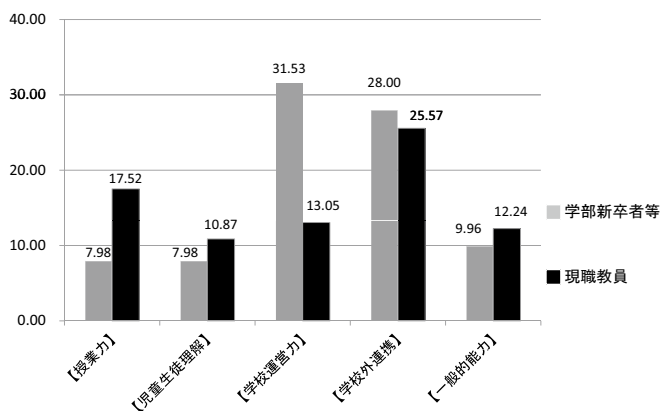


図2 学部新卒者等／現職教員別、「a. 期待せず獲得もせず」の割合 (%)

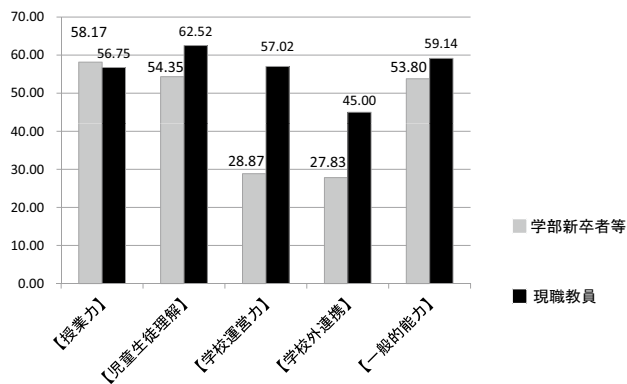


図3 学部新卒者等／現職教員別、「b. 期待し獲得もした」の割合 (%)

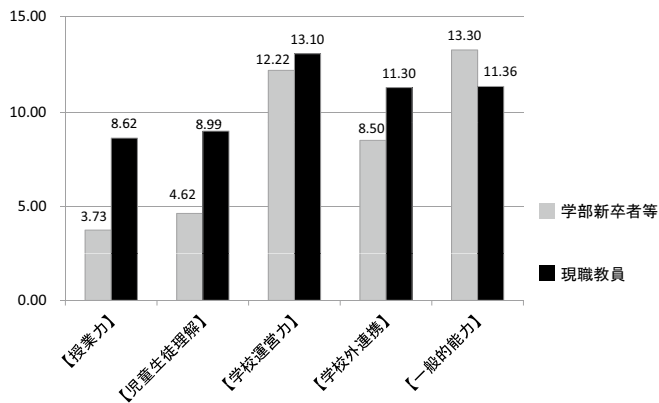


図4 学部新卒者等／現職教員別、「c. 期待しないが獲得した」の割合 (%)

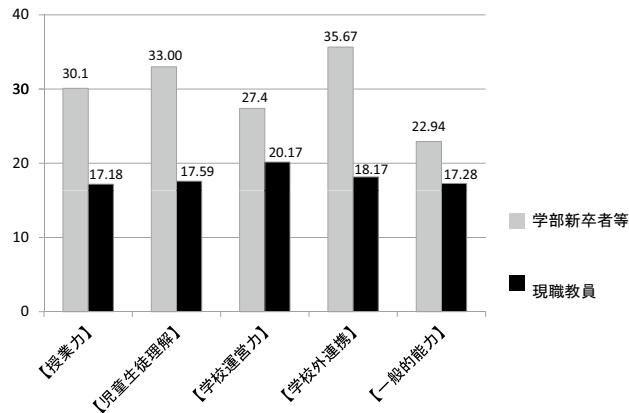


図5 学部新卒者等／現職教員別、「d. 期待したが獲得せず」の割合 (%)

職教員で比べたものが表9である。前述のように、学部新卒者等も現職教員もその他の類型に比べ「b. 期待したし獲得もした」に該当した項目数が多い。また、「d. 期待したが獲得せず」に関しては学部新卒者等の方が現職教員よりも該当した項目数が多い。また、平均値に関して、これらbとdは、「a. 期待せず獲得もせず」と「c. 期待しないが獲得した」に比べ学部新卒者等と現職教員で差が大きく、標準偏差に関しては、a～dいずれの場合も学部新卒者等と現職教員で差が小さいことがわかる。

表9 学部新卒者等／現職教員別、26項目中a～dに該当した項目数の平均値と標準偏差

| | 学部新卒者等 | | 現職教員 | | <i>p</i> (注1) |
|---------------|--------|------|-------|------|------------------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | |
| a. 期待せず獲得もせず | 4.08 | 3.95 | 3.73 | 4.12 | n.s. |
| b. 期待したし獲得もした | 11.69 | 5.74 | 14.38 | 6.65 | ** |
| c. 期待しないが獲得した | 2.10 | 2.64 | 2.66 | 3.41 | *** |
| d. 期待したが獲得せず | 7.45 | 5.37 | 4.35 | 4.53 | ** |

*** $p < .001$ ** $p < .01$

(注1) 有意確率は学部新卒者等と現職教員に関して行った独立したサンプルのt検定の結果。

4. おわりに

本研究の知見は以下の4点である。

第一は、入学前に身につけることを期待した能力に関しては、学部新卒学生と現職教員学生で違いがあった。学部新卒学生は【授業力】【児童生徒理解】の獲得を期待する者が多く、現職教員学生は【学校運営力】の獲得を期待する者が多い。

第二は、大学院で身につけた能力に関しては、圧倒的に現職教員学生の方が獲得した割合が高

いことである。学部新卒学生の方が獲得しているのは「B. 授業を展開していく技術」のみである（ただし、学部新卒学生と現職教員学生の間で統計的有意差はないが、「C. 生徒を楽しませ、笑顔にさせる方法」も若干ながら学部新卒学生の方が多く獲得している）。その他の項目、特に【学校運営力】【学校外連携】【児童生徒理解】では、現職教員学生の方がかなり多く能力を獲得している。

第三は、入学前の能力獲得に対する期待と大学院での能力獲得を掛け合わせたところ、学部新卒学生も現職教員学生も約過半数が、入学前に獲得を期待した能力を獲得していることである。これに、入学前に能力獲得を期待せず大学院で能力獲得しなかった者の割合をあわせれば、学部新卒学生の約6割、現職教員学生の約7割が、当初の想定通りに能力を獲得していることがわかる。このように入学前からの想定通りに能力獲得している学生が大多数であるものの、他方で、学部新卒学生の約3割、現職教員学生の2割弱は、入学前に獲得を期待した能力を身につけられていない。学部新卒学生が多くの能力に関して、入学前に獲得を期待していたものの大学院で獲得していないことは、学生の学びのモチベーションの維持や大学院教育の教育効果を考える上で問題をはらんでいると言える。

第四は、学部新卒学生と現職学生では、教職大学院の教育に求めるものがそもそも違うのではないかということである。教職大学院が実践的指導力を持つ新人教員とスクールリーダー（中核的中堅教員）養成という2つの目的を持っていることから、こうしたいわば学生のニーズの違いは当然の結果かもしれない。特に【学校運営力】【学校外連携】に関しては、教員としての実務経験のない学部新卒学生にとっては、入学前にその必要性を認識したり獲得を期待したりしづらい能力かもしれない。それが顕著に表れているのは、図2の入学前に獲得を期待しておらず大学院で獲得しなかった能力である。特に【学校運営力】に関しては、学部新卒学生と現職教員学生の違いが顕著であったが、実務経験のない学部新卒学生にとっては【学校運営力】や【学校外連携】といった能力に関して、入学前に獲得を期待せず実際に大学院で獲得もしないのは妥当な結果と言えよう。

本研究は、能力の獲得の期待と実際の能力獲得の関係を考察するものであり、実際の能力獲得が学生の大学院の課内・課外におけるどのような学習行動と関連しているのかを分析していない。また、期待の実現度によって、大学教育に対する満足度に違いがあるのかといった、能力獲得の期待および実際の獲得が大学教育の意義づけをどの程度、変えるものなのかといった分析も行っていない。また、能力を学生の自己評価で把握しているという点は課題ではある。実務経験のない学部新卒者は、教職大学院で共に学ぶ現職教員と比較して自身の能力を低く見積もざるを得ない状況なのかもしれない。

今後、本調査データの分析やインタビューなどインテンシブな調査を行い、上記の課題を検討したい。

【引用文献】

- 両角亜希子 (2009) 「大学生の学習行動の大学間比較—授業の効果に着目して」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第49巻、191-206。
- 新藤慶、山口陽弘 (2013) 「群馬大学教職大学院の修了生調査からみられる教職大学院の成果と改善点の検討」群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター『群馬大学教育実践研究』第39巻、145-155。
- 吉田文、濱中淳子 (2008) 「専門職大学院の教育とその効果」『日本教育社会学会第60回大会発表要旨集録』211-214。

【謝辞】

本論文は、早稲田大学教育総合研究所一般研究部会 (B-10) 「教職大学院の「専門性」に関する研究：学生調査からとらえるその多面性の考察 (代表：吉田文)」(2012-2013年) の研究成果の一部である。協力して下さった関係各所の皆様に厚くお礼を申し上げたい。

- 1 文部科学省ホームページの教職大学院に関する説明を参照。 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm: (閲覧日：2013年9月20日)。
上記のホームページによれば、教職大学院が目的としているのは「学部段階での資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員の養成」と「現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー (中核的中堅教員) の養成」であるという。
- 2 例えば、2003年の内閣府人間力戦略研究会による「人間力」、2004年の厚生労働省による「若年者就職基礎能力」、2006年の経済産業省による「社会人基礎力」、2008年の文部科学省中央教育審議会による「学士力」が代表的な提言としてあげられる。
- 3 代表的なものとしては、カルフォルニア大学ロサンゼルス校のアスティン教授が開発した College Student Survey を参考に山田が作成した「日本版大学生調査 (JCSS)」や特に新入生を対象にした「新入生調査 (JFS)」、全国大学生調査コンソーシアムらが実施する「全国大学生調査」、国際的な観点から卒業生を対象に日本では吉本が実施した「卒業生のキャリアと大学教育の評価に関する日欧調査 (Reflex調査)」などがある。これらの調査の一設問として、能力や知識・技術をどの程度身につけているか、学生の自己評価を聞いている。
- 4 掲ホームページ。 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm (閲覧日：2013年9月20日)。